

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

京 都 府

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	丹波町立丹波ひかり小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	19
児童数	57	53	71	48	53	63	4	349	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付け、自らめあてをもって生き生きと活動する児童の育成
～個に応じた社会科学習をとおして、生きる力を培う～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・3～6年生 社会科

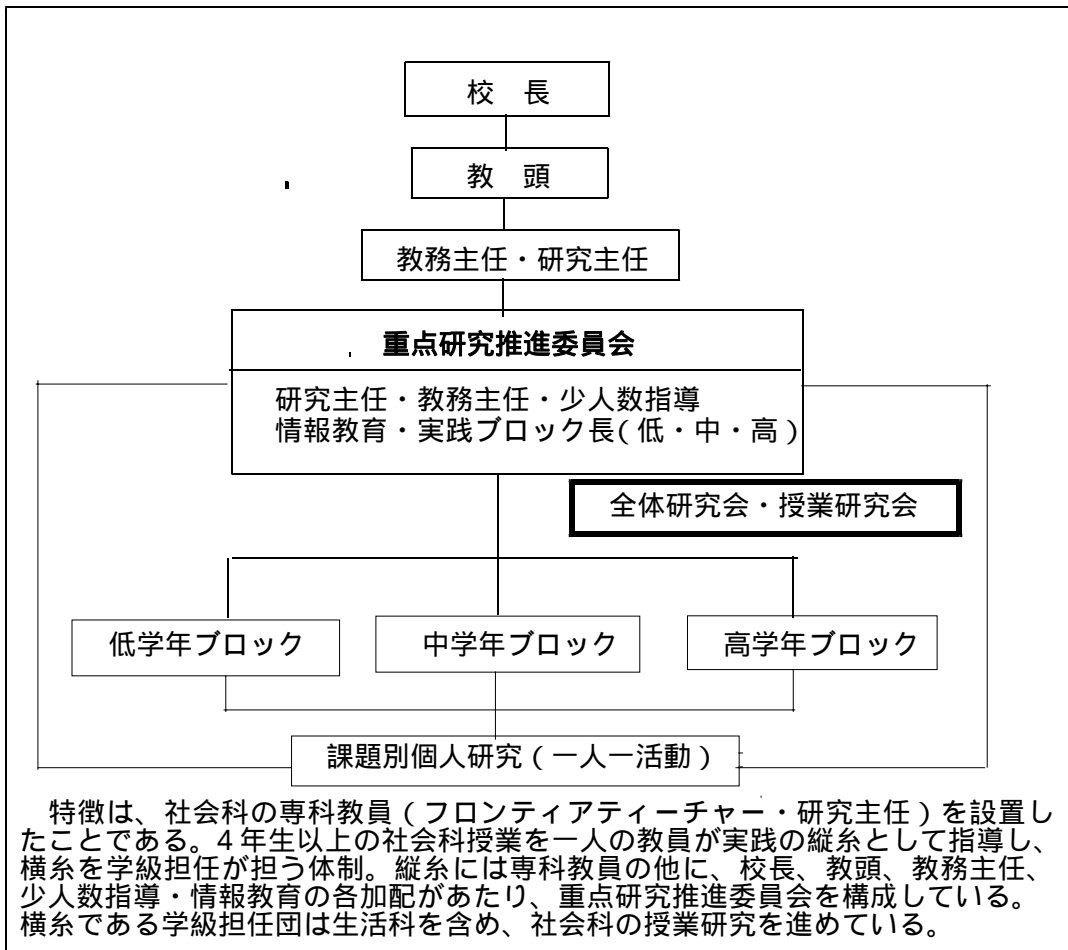
児童一人一人の基礎学力の充実と学習に対する興味や関心を高め、問題や課題に主体的に取り組む問題解決能力の育成が課題となっていた。そのため、児童が自ら生活する郷土に関心を持ち、自らが主体的に取り組む社会科学習を通して、進展する国際社会の中で力強く生き抜く「確かな学力」を身に付けることを目指し研究実践に取り組むこととした。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	ア テーマ	個に応じた社会科学習をとおして、生きる力を培う。
	イ 研究の見通し	(ア) 1年次 3つの研究視点について実践と検証を行う。 (イ) 2年次 1年次の研究成果と課題を踏まえた実践、研究内容・方法の 焦点化や拡充を図る。
	ウ 研究の内容・方法	(ア) 教科担任を生かした指導方法・指導体制の研究 a 教科担任による指導方法の開発 b T・Tによる指導や少人数授業による授業改善 検証 授業研究を中心とした日々の授業改善 他教科への波及 (イ) 社会的事象に対する関心を高め、主体的な学習活動を喚起する教材 教具の開発 a 地域素材の教材化 b コンピュータをはじめとする教育機器の活用 検証 地域教材集の作成 地域人材リストの作成 (ウ) 基礎・基本の定着を図る評価方法の工夫改善 a 年間指導計画と評価規準の改善 b 系統的な単元指導計画と評価計画に基づく学習活動の展開 検証 学力診断テストの実施と学力分析 児童の変容を示す記録作成と分析






平成 16 年度	<p>ア テーマ 個に応じた社会科学学習をとおして、生きる力を培う。</p> <p>イ 研究の見通し</p> <p>(ア) 2年次実践研究計画立案</p> <p>(イ) 研究推進体制の修正</p> <p>(ウ) 研究発表会の開催(11月)上旬の予定)</p> <p>ウ 研究の内容・方法</p> <p>(ア) 教科担任を生かした指導方法・指導体制の研究</p> <p>a 教科担任による指導方法の開発</p> <p>b T・Tによる指導や少人数授業による授業改善 検証 授業研究を中心とした日々の授業改善 他教科への波及</p> <p>(イ) 社会的事象に対する関心を高め、主体的な学習活動を喚起する教材 教員の開発</p> <p>a 地域教材資料集「わたしたちの丹波町」の活用</p> <p>b コンピュータをはじめとする教育機器の活用 検証 地域教材資料集を使った授業展開の検証 地域人材や授業資料リストの作成</p> <p>(ウ) 基礎・基本の定着を図る評価方法の工夫改善</p> <p>a 4観点にそった評価方法と指導の手だてを確立する。</p> <p>b 系統的な単元指導計画と評価計画に基づく学習活動の展開 検証 学力診断テスト・授業評価の定期的な実施と学力分析(前年度 の比較もとる) 児童の変容を示す記録作成と分析</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制

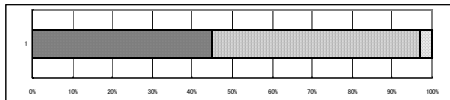


平成15年度の研究成果及び今後の課題
1. 研究成果

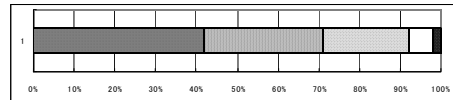
(1) 検証1 (教科担任による社会科授業評価 H15・12・9実施 対象:4年生以上168名)

そう思う 
 だいたいそう思う 
 あまりそう思わない 
 そう思わない 
 わからない 

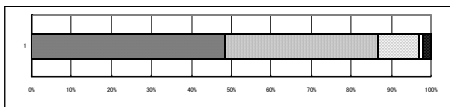
1 授業の内容は分かる。



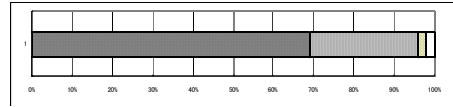
2 社会科の学習は好き。



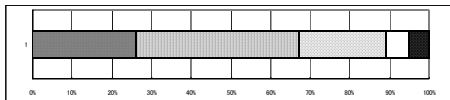
3 社会科で学習することは役に立つ



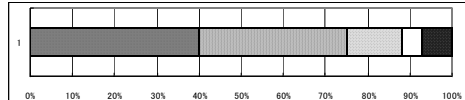
4 授業では新しいことを知ったり体験したりできる



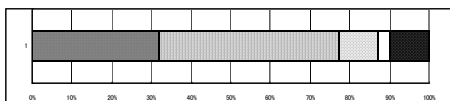
5 授業では自分から調べたり考えたりする事が多い



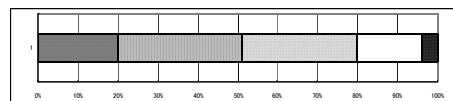
6 授業でわからない時、先生に質問できる



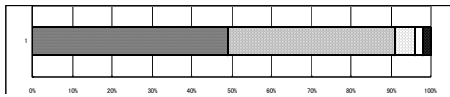
7 先生は自分が学習で努力したことを認めてくれる



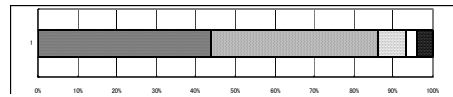
8 授業では自分の考えを発表することが多い



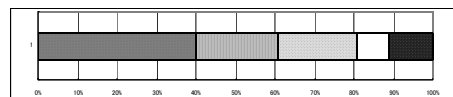
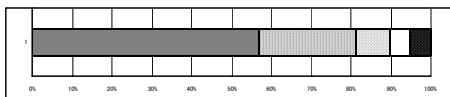
9 授業に集中して取り組んでいる。



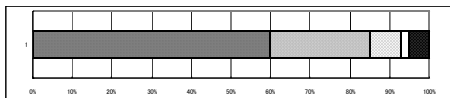
10 自力調べて自分の調べる力はアップした



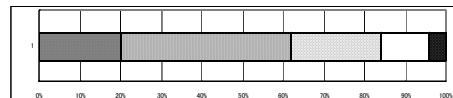
11 担任外の先生に教えてもらう機会があるのはいい。 12 授業に2人の先生がいる方が1人よりもいい



13 課題やコースを選んで学習するのはいい



14 自分のノートは見やすくまとめられている



で担任外教員による指導には80%のプラス評価を、で課題別学習についても85%のプラス評価をしている。しかし、では一斉授業に2人の教師が入ることについては60%の評価で、児童がそれになじんでいない状況を見ることができる。今後、この検証を重ね、分析していきたい。

(2) 検証2 (丹波町社会科資料集「わたしたちの丹波町」)

自分たちの町について知り、郷土に対する愛情を育てることをねらいに、丹波町社会科資料集「わたしたちの丹波町」を作成した。教科書教材に即して編集し、単元で児童が調べたいような点(導入段階)、考える点(展開、まとめ)の一部分を掲載していくことを大切にしている。より自分たちの町を身近に感じ、考える資料集として活用を進めていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

1	観点別到達度学力検査（CRT）
(1)	調査の目的 社会科の基礎学力について観点別の学習状況を把握し、指導の改善を図る。
(2)	実施内容 学年：第4学年 第5学年 第6学年 教科：社会
(3)	時 期 平成15年7月7日
2	授業評価アンケート
(1)	調査の目的 社会科授業や指導の工夫改善にかかわる児童個々の意識を把握し指導に生かす。
(2)	実施内容 学年：第4学年 第5学年 第6学年 教科：社会
(3)	時 期 平成15年12月19日

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

月	日	普及方策	内 容
4	28	保護者説明会	P T A 総会での説明
7	17	広報紙発行	学力向上フロンティア広報紙 「未来をつくる丹波っ子7月号」
8	20	ホームページ公開	京都府教育情報ネットワークシステムに接続
8	1	実践発表	平成15年度教小学校教育課程京都府研究大会 発表題 「社会科における個に応じた指導方法・指導体制の工夫」
12	19	広報紙発行	学力向上フロンティア広報紙 「未来をつくる丹波っ子12月号」
1	20	公開授業 研究発表	平成15年度 京都夢・未来校局別実践研究会
2	下旬	広報紙発行	学力向上フロンティア広報紙 「未来をつくる丹波っ子2月号」
11	上旬	研究実践 発表会	公開授業・実践発表等実施予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無